

人間の五感は、いい加減なもの！

テレビの特別番組で、多数の有名人を被験者にして、色んな物の超高級品と並の品との区別が付くかどうかといった、とても興味深い番組をしていました。たまたま偶然に見始めていたところ、非常に面白い内容だったので、つい真剣に最後まで見てしまいました。全体としての感想は、やはりそうか、人間の五感なんて実にいい加減なもので、ブライントテストをすれば、あまり当たらないものだと再認識しました。

例えば、その中で最も興味深かったのは、ストラディバリのような超有名な名器の楽器3丁の総額が34億円の弦楽三重奏の音と、同じ演奏者で同じ曲を、同50万円の初級者用の楽器で演奏した時に両者を聴き比べて、その差がわかるかどうかという実験でした。値段にして、なんと6800倍もの大差があり、こんなに大差があれば簡単に判別できそうですが、その結果は真剣に耳をそばだてて集中して聴き比べても、

全く迷わずに34億円の方が明らかに良い音がすると断言した人はおらず、正解者でも、かなり迷った末に決めており、まぐれ当たりの可能性もあります。なにしろ、でたらめに答えても、二者択一ですから50%の確率で正解となりますから。これで何が言えるかといえば、素人の耳にはストラディバリなんて全く『猫に小判』であり、どんな楽器でも構わないということになります。ただし、あらかじめどちらがどの楽器かを知らされていて、先入観を持って聴けば、ほぼすべての人が34億円のストラディバリなどの音の方が素晴らしいと言うことでしょう。悲しいですが、人間の聴覚なんてこの程度のものなんです。プロの音楽家やオーディオ評論家にこのようなブラインドテストをしたら、どのような結果になるか非常に興味深いですが、そんな実験はやらせてくれないでしょうね。もしも間違ったら全く恰好付きませんから。以前に、自宅を売ってストラディバ

りを買った有名なプロの女性ヴァイオリニストがいましたねー。折角そこまでしてもらっても、一般大衆の耳では、残念ながら区別が付かないのです。このような例は、たくさんあります。なので、その程度の耳しか持ち合わせていない一般の人たちに、10万円のアンプと500万円のアンプの差がわかるはずがありません。何か差があることはわかったとしても、音の良さで50倍の差があると言う人は皆無だと思います。値段と好みの音とは全く別物ですから。

その他に、そのテレビ番組で印象に残っているものとしては、生と冷凍のカニを茹でたものの味の比較、高級なフカヒレと人造フカヒレの味の比較など、実に様々な比較をしていました。味覚の場合は、料理人としても活躍している有名人は、さすがにすんなりと正解していましたが、そうでない人たちは、やはり正解率が高くありませんでした。よくテ

レビに出ているグルメっぽい非常に有名な人でも間違っていました。

人間の五感には、視覚、嗅覚、聴覚、味覚、触覚がありますが、リアルタイムに俊敏に応答しないものは、嗅覚と味覚です。これらは、各情報に対する応答のメカニズムを知れば当然のことです。

嗅覚では慣れがあり、多少の好ましくない臭いでも、その環境の中にしばらく居れば、苦にならなくなってしまうこともあります。また、自分の体臭には気付きませんが、他人の体臭には敏感に反応します。たとえば、いつも寝ている自分の枕や布団は何とも思いませんが、他人の家で泊めてもらう時のそれらの臭いは気になります。さらに、口臭の強い人やヘビースモーカーの口臭も、至近距離にいたらとても嫌なものですが、本人は何とも思っていないことでしょう。においにも各人の好き嫌いがあります。

味覚の場合は、味物質と味蕾との接触や結合・解離の関係があり、リアルタイムに次々と連続して味を正確に判別することができません。また、トウガラシの辛さは、感じるまでに少しのタイムラグがあり、しかも後にしばらく辛さが残ります。その実例ですが、以前に私はJICAのプロジェクトで、タイのチェンマイ大学のバイオ系の先生方にバイテクの指導に行って2カ月間チェンマイに滞在しておりました。そこへ着いた夜にレストランへ連れて行ってもらい、その一品の料理に、非常に小さくて緑色したかわいいトウガラシが何個か乗っていました。タイの先生にそれが『プリッキーヌ』という名前で、タイ語で『ネズミの糞に似た物』という意味ですが、これは非常に辛いので注意してくださいと言われました。私は何でもトライする国際人ですし、何回も行ったタイでイモムシ、サソリ、タガメ、コオロギなども経験で食べました。プリッキーヌはとても

小さくて緑色なので、大したことないだろうと、あなどって真っ先にまとめて何個か食べてみました。噛んだ直後は、別に何ともなかったのですが、20～30秒後になると辛さを感じ始めて、さらにその直後にまさにhotという口内大火事の超激辛となり、それを少しでも鎮めようと水を飲んだところ、水ではなくてそのトウガラシ水のような感じで、その水も激辛の味がしました。この後に何を食べてもそのトウガラシの味しかしませんでしたし、食後しばらくはそのような状態が続き、とても悲惨でした。トウガラシの辛さの特徴は、まさにこのようであり、噛んで少ししてから辛さが認識でき始め、その後もしばらく後味として辛さが残ることです。関連の下劣な話ですが、タイで毎日のように激辛のトウガラシを食べ続けていると、排便した後に肛門が熱く感じるのです。専門家に聞いてみると、これはトウガラシの辛味成分であるカプサイシンが一部排泄さ

れてきて、それが肛門粘膜を刺激するからのようです。したがって、タイへ行ってタイ人と同じような食生活をすると肛門が熱くなるのです。貴重な熱い体験でした。

その他に、日本で『茶かぶき』や『利き酒』などの味を比べる会にも出席して、頑張ったこともありましたが、最初の一口目の印象が重要であり、テイスティングを重ねるに従って舌が次第にマヒしてきて、同じ時に試飲すればするほど差がわかりにくくなってしまい、ついには超高級品と最も安価な普及品の区別さえできなくて、特にリピートした場合の味の判別の難しさを痛感しております。味覚は、もちろん嗅覚とも深く関係しており、風邪などで鼻が詰まっていると、味がよく分かりません。

味の好みや良し悪しの感じ方、さらには嗜好全般についても、下記

のような要因が深く関与しており、絶対的で客観的な評価は、とても不可能です。好き嫌いは、各人の様々な要因によって大きく異なり、千差万別です。これは音楽の好み・音質の好みなどの聴覚を含む五感全体にも、ほぼそっくり当てはまるような気がします。結局は、他人が何を言おうと、試してみても自分の一番好きなものを選べば、それがその人のベストなものとなります。たとえそれが安物であってもいいじゃないですか、気にすることはありません。

味の好みに関しては、日本国内では地域差が大きく、たとえば関西、特に京都は薄味を好み、東北地方などでは濃い味・塩辛い味を好む傾向があるのは、よく知られています。これは幼児期からの慣れ・習慣によることが大きいと思われれます。塩分を摂取し過ぎますと、高血圧などの疾病の発症率が高まりますので、嗜好は非常に重要です。

嗜好に影響する主な要因

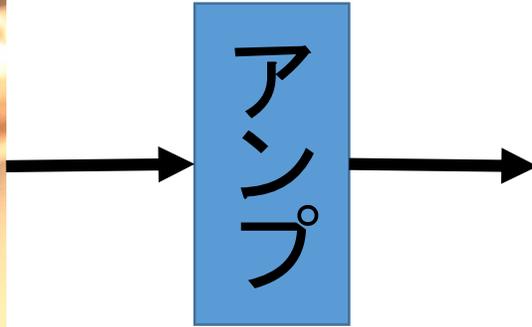
- ★ 遺伝子
- ★ 民族
- ★ 国
- ★ 宗教・風習
- ★ 居住地域
- ★ 家庭
- ★ 環境
- ★ 経歴
- ★ 行動範囲
- ★ 性格 など

- イスラム教徒の豚肉禁止
- モルモン教徒の酒・タバコの禁止
- 犬・クジラ・タコ・刺身などを食べる食文化
- タイ・中国・ベトナムなどの食文化

特に聴覚と音楽について

総額34億円のストラディバリなどの弦楽三重奏と50万円の入門者用のそれとの区別が聴き分けられないということを書きましたが、普通の人にブラインドテストをすれば、そうなるのでしょ。この現実は、生でも再生でも音楽鑑賞において非常に重要なことです。なにしろ人間の耳は、その程度のものなのですから。なので無理して何百万円以上もする超高価なオーディオ装置を買っても、あまり意味がないということになります。とにかく金額と音の良さ・好みは比例しませんし、絶対に良い音というものは存在しません。つまり音にも各人の好みがあり、それは千差万別なのです。たとえば現代の音とも言えるハイスピード・クイックレスポンス・超広帯域・広ダイナミックレンジでシャープな音楽を好む人もおれば、その逆のような特性のアナログ音楽が好きな人

もいます。特にレコードによるアナログ音楽の場合は、入力側のフォノカートリッジと出力側のスピーカーによって、音質は大きく異なります。さらにアンプによる音の違いもあり、それらの組合せは無数にあって、それぞれに出る音も全て異なります。どの組み合わせが一番良い音であるかは、各人の好みによります。基本性能に問題のある超安価なシステムは別として、中級以上のものであれば、音の好みと値段は比例しないと言うことは断言できます。ただし、単に高価な装置を持って所有欲を満たすだけのためや成金趣味のある人は、何百万円以上もする超高価なオーディオ装置を買ってください。さらに音の評価が装置の見た目や価格に大いに惑わされるプラシーボ効果に弱い人もです。本来のオーディオは、装置の価格競争をしたり、豪華な装置を見せびらかす趣味ではなくて、音が最も重要なのです。



レコードを聴く時の愛用のフォノカートリッジとスピーカーの組み合わせの一例
フォノカートリッジを何個繋ぎ換えても全て違う音が出るし、スピーカーでも同様の結果となる。
しかし、アンプの場合は、フォノカートリッジやスピーカーより変化は小さい。

自分にベストの音 = 自分の最も好きな音

(中級品以上なら装置の金額とはあまり関係なく、好みは人によって千差万別)

グレードアップと称して、次第により高価な装置を順次買い続けても、いつまでたっても最終点には到達しませんので、そこそこで無駄なことは止めましょう。メーカー自身やメーカーお抱えの外部宣伝員の役目のオーディオ評論家の巧妙な宣伝文句の罠にかからないように注意しましょう。自分の耳に自信がない人ほど、メーカーの宣伝文句や他人の意見に簡単に左右されるのです。それらを鵜呑みにしないことが重要です。逆にオーディオのベテランで一家言のある人は、強い信念を持っており、何を言ってもなかなか聞き入れてくれません。

なにしろ普通の人には、『34億円の楽器』と『50万円の楽器』の区別が

付かないし、中年以降になるとさらに高音域が聴こえないのですよ！酒を利き分ける『利き酒』、お茶の『茶かぶき』、お香の『聞香』のように、音楽でも類似のことをするとよいと思います。たとえば私が所有しているゴールドCDには、Steinway & Sons, Bösendorfer, Bechsteinなどといった有名な各種ピアノの音が入っていて、聴き比べができますが、類似の聴き比べ大会をすとか、オーディオ評論士国家資格のようなものを設立して、それに合格した者でないとオーディオ評論家になれないとか、オーディオメーカーで当社の技術開発部門にはオーディオ評論士国家資格一級の技術者が5名おりますとかを公表するようにしたら面白いと思いますし、今よりもさらに良い商品開発ができるはずですが、回路設計も重要ですが、そこから出る音は、もっとはるかに重要なのですから。オーディオは、最終的には耳で聴く音です！



伊東深水の名画「**聞香**」

終り